



**2025年3月期 第3四半期  
決算補足説明資料**

**2025年 1月31日（金）**

**ウェーブロックホールディングス株式会社  
証券コード：7940  
（東証スタンダード市場）**

## ■ 売上高 19,099百万円（前年同期比+10.4%）

- 成長分野である自動車向け販売(デコレーション&ディスプレイ分野)が前年同期比+29.6%と順調に拡大
- 猛暑対策品となる農業向け遮熱・遮光製品の販売が急増
- 通期予想進捗率74.9%

## ■ 営業利益 354百万円（前年同期比△25.0%）

- 自動車向け販売の成長が利益に貢献
- 期初原価改定差益の減少により前年同期比ではマイナス
- 通期予想進捗率84.4%

## ■ 四半期純利益 272百万円（前年同期比△49.8%）

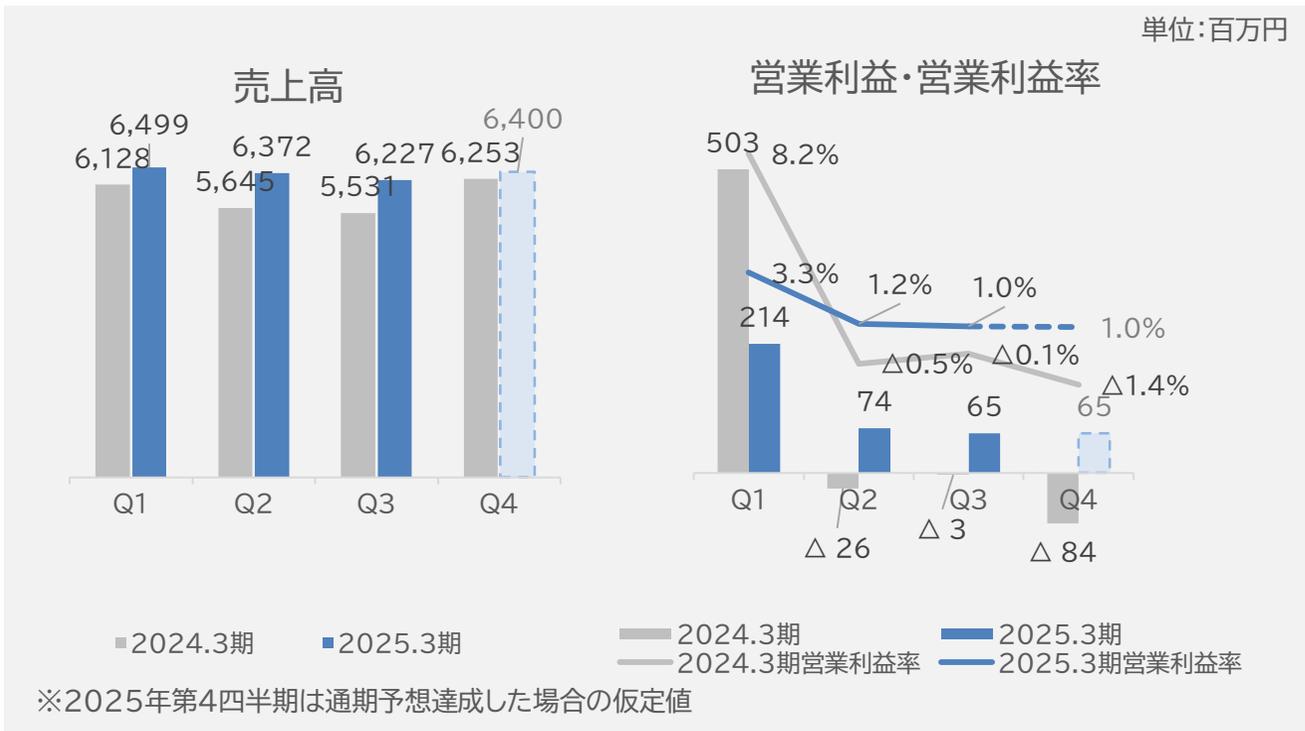
- 海外子会社に対する債権等への為替差損が発生(前年同期は為替差益を計上)
- 通期予想進捗率61.8%

- 売上高・営業利益:第2四半期に続き順調に伸長。成長分野であるアドバンステクノロジー事業の自動車向け販売の好調が利益に貢献。マテリアルソリューション事業は農業向け猛暑対策品の遮熱・遮光網の好調が防虫網の苦戦をカバー。製造効率の向上、間接コストの削減も営業利益獲得に寄与
- 経常利益以下:為替差損の増加等により通期予想に対する進捗は第2四半期比較で鈍化
- 通期予想達成に向けて
  - 売上高および営業利益:第3四半期までの傾向が継続し概ね予想どおり進捗の見込み
  - 経常利益以下:海外子会社に対する債権等に対し12月末の円安の影響を受け為替差益を計上予定

(単位:百万円)

	2024年3月期 第3四半期 (実績)	2025年3月期 第3四半期 (実績)	増減率	通期予想	進捗率
売上高	17,306	19,099	+10.4%	25,500	74.9%
マテリアル	13,160	14,341	+9.0%	19,000	75.5%
アドバンス	4,162	4,803	+15.4%	6,500	73.9%
営業利益	472	354	△25.0%	420	84.4%
マテリアル	981	693	△29.4%	950	73.0%
アドバンス	△12	129	-	150	86.0%
その他	△496	△467	-	△680	-
経常利益	792	434	△45.2%	660	65.8%
四半期純利益	541	272	△49.8%	440	61.8%

# 売上高・営業利益の四半期推移と見通し



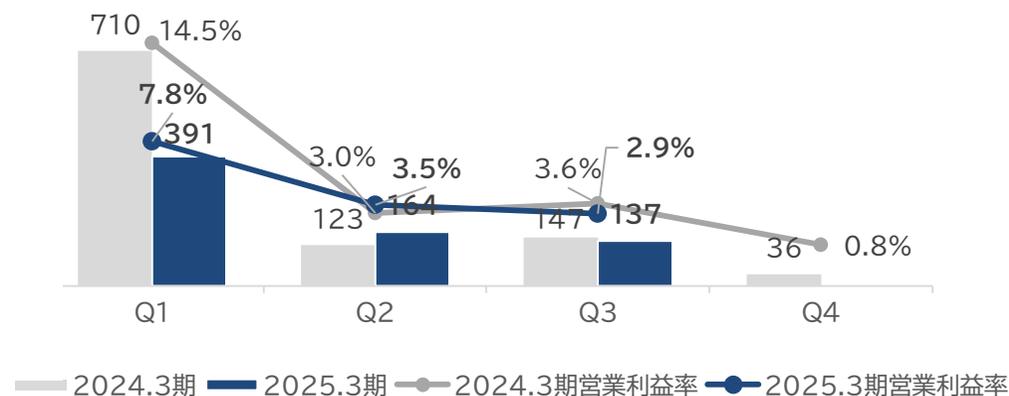
- 第1四半期  
 期初原価改定差益の減少や防虫網販売の不振により営業利益は前年同期比減
- 第2四半期・第3四半期  
 アドバンステクノロジー事業は自動車向け販売が順調に成長。マテリアルソリューション事業はナフサ価格上昇にともなう原材料価格高騰のなか製造効率改善に努めた。これらにより売上高・営業利益ともに前年同期比プラスで推移。原材料価格の指標となるナフサ価格は第2四半期をピークに下落傾向となるも、ナフサ価格非連動の材料価格は高騰
- 第4四半期  
 前年同期はマテリアルソリューション事業の一時的な機械トラブル等により利益面で苦戦。今期は第3四半期までの傾向が続くとみており、自動車向け販売の増加、さらなる売値値上げの実施、製造効率の向上、間接コストの削減による利益獲得を見込む。一方、ナフサ価格非連動の材料価格の上昇や政策変動に伴うEV車需要の不透明感はリスク

単位:百万円

売上高



営業利益・営業利益率



## リビングソリューション:

- ホームセンター向け販売において防虫網は低調だったものの、園芸用品は堅調に推移。サッシメーカー向け防虫網は住宅着工数減少の影響を受け受注減。期初原価改定の影響も受け前年同期比減益

## ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション:

- 製造原価上昇分の売価転嫁が浸透。仮設ターポリンや衣料資材は引き続き販売好調。防災対策品となる車両防水カバーの新製品を2025年1月に上市

## パッケージングソリューション:

- 製造原価上昇分の売価転嫁を引き続き実施。顧客との連携強化による販売数量増加や生産体制の見直しにより生産効率も向上。前期第4四半期は機械トラブルにより苦戦したが今期は問題なく稼働の見込み

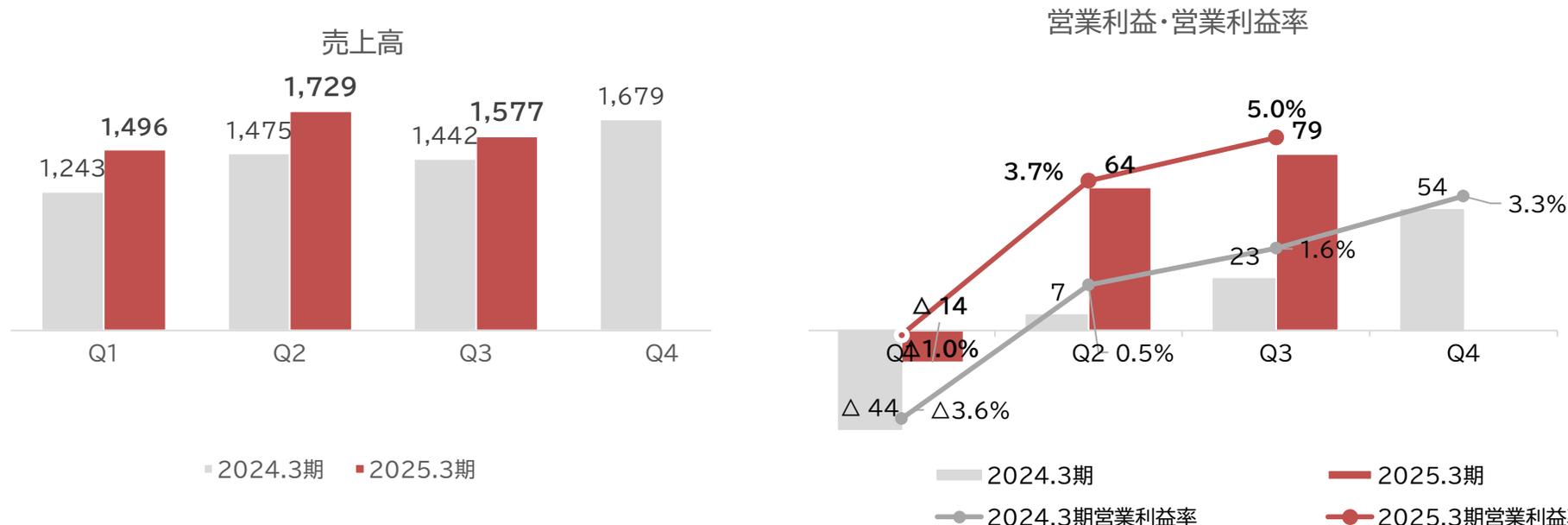
## アグリソリューション:

- 農業資材は猛暑対策向け遮熱・遮光網の需要増に伴い販売急増。防虫ネットや防草シート類も各種キャンペーンの効果により堅調

## その他

- 海外子会社の活用によるホームセンター向け販売が堅調

単位:百万円



## デコレーション&ディスプレイ:

- 金属調加飾フィルムは北米EVメーカーにおける部品不足に伴う生産停止などの影響を受けたものの、フィルム販売、成形加工品販売ともに順調に拡大
- フィルム販売は、前期苦戦した中国向けにおいて大手EVメーカーの複数車種エンブレムへの採用により拡大。北米、インド・東南アジア向けも引き続き成長。国内向けも堅調。販売数量増加により生産効率向上
- 成形加工品販売は安定供給体制に一定の目途。今後は収率および品質改善に取り組む
- 高透明多層フィルムはヘッドアップディスプレイやEV充電器、エンブレムなど新規採用されたものの、採用車種の在庫調整や量産開始時期の遅れにより苦戦
- 事業拡大のための設備投資による減価償却費や、販売拡大に伴う人件費、新たな主軸製品を目指す塗装代替フィルムの開発費なども吸収し成長。EV車に対する政策動向は要注視

## その他:

- テレビモニター用導光板の販売増加も、仕入販売のため利益への影響は些少

本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。  
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。